

号外特集

熊本地震

ChallengeNews

情報満載の明徳会の広報誌

号外特集 熊本地震

- 明徳会理事長 榑嶋潤一郎
- チャレンジめいとくの里施設長 平川貞俊
- ケア・ハピネス施設長 松村忠彦

明徳会理事長 榑嶋潤一郎

■チャレンジめいとくの里の本震後の状況

この度の熊本地震におきまして、亡くなられた方々に哀悼の意を捧げますとともに、被害にあわれた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

本震の起きた16日午前1時25分は、いつもと変わらずチャレンジめいとくの里に夜勤者2名、オレンジハウスの夜勤者1名はチャレンジめいとくの里待機の時間でオレンジハウスに職員は0名の状態でした。チャレンジめいとくの里からの一報は、本震から1～2分後に携帯電話に連絡が入りました。状況は、皆が起きて来て怯えていて、停電している。とのことでした。余震の続く中暗闇で50名のご利用者様を3人で屋外に避難させることは逆に危険と判断し、懐中電灯をつけて落ち着かせることしか指示できませんでした。明徳会の施設は、災害に強い鉄筋コンクリート平屋建てであるため強度はしっかりしていることが何よりの救いでした。夜勤者のうち1名は直ぐにオレンジハウスに行かなければいけませんでした。オレンジハウスも幸い皆さん無事で、チャレンジめいとくの里に全員避難

して夜明けを待つことにしました。早朝には、近隣に住む若い職員が自主的に数名駆けつけてくれて、対応にあたってくれました。時間が経つにつれ被害の状況が分かり、職員も多くの方が被災し車中泊から出勤する方もいました。水道は井戸水を使い、ガスもプロパンでロックを解除すれば使え、朝には停電も解消していました。朝食も何とか出すことが出来き、少しずつ落ち着きを取り戻していきました。



(本震後の朝食の様子)

それからは、「いそがず、あせらず、笑顔で」を合言葉にご利用者様のケアを、出でこれる職員で力を合わせて頑張りました。



(娛樂室に集まる入所者さん)

震災のストレスは、今なおご利用者様の中には少なからずあると思います、また東日本大震災の経験から1年後2年後に影響が

現れる方もあると聞きます。今後も継続した心のケアを続けていくことが必要であると感じております。



(復興祈願 ディスコ)



(4月23日には職員有志でパワーアップDISCOを開催)

■福祉避難所の役割

チャレンジめいとくの里は、協定で熊本市の福祉避難所に指定されています。福祉避難所とは一般の避難所生活において、障がい等で何らかの特別な配慮が必要な方のために開設される二次的避難所です。そのため最初から避難所として一般市民が避難することが出来ないことになっています。しかし、現実是一般の地域の方が避難されて来られます。十分なことは出来ませんが、可能な限り受入れ、その後福祉避難対象者の方も数名受入れを行いました。

幸い皆さん、行政のフォローもあり次の生活の拠点や家に戻られていられました。今回の経験から、福祉避難所の役目や場所を日ごろから多くの方に周知しておくこと、また、対象者と福祉避難所を繋ぐ連携が必要であると感じました。入所施設は、ご利用者様が24時間生活されており災害時には職員数が極端に限られる、その中で福祉避難所としてまた地域の避難所としてどこまで機能することが出来るのか課題が残りました。社会福祉法人として、今後も社会的に確実に貢献できる体制づくりや課題の見直しを行いながら、日ごろから災害に強い施設を意識して活動を続けていきたいと考えます。

—— チャレンジめいとくの里施設長 平川貞俊

■平成28年4月14日(木)午後9時26分と4月16日(土)午前1時25分の2度にわたって大地震が発生しましたが、幸いなことにチャレンジめいとくの里とオレンジハウス共に建物が使用できなくなるような大きな損傷はありませんでした。さらに入所ご利用者様・ご家族や通所のご利用者様・ご家族が負傷されることもなく、全員が無事であったことは何よりでした。また、職員とご家族も全員無事であったことは重ねて嬉しいことでした。

しかし、入所ご利用者様の場合、自宅が半壊等や一部損壊等の被災によりご家族が避難所や車中泊等で過ごされている方などもおられ、ほとんどのご利用者様は週末帰省がキャンセルになったり、引き続き余震が起こったりしたため、相当なストレスを感じておられるようでした。そのため、ご利用者様の情緒の安定を図るための配慮も大きな課題でした。

一方、通所ご利用者様の場合、震災後の

様子について「地震状況アンケート」によると、大地震発生後は車中泊や自宅で過ごされた方がほとんどでした。ライフラインの復旧が遅れる中、食料や飲料水、トイレ、入浴、洗濯などに困ったと多くの方が回答されています。また、一般の避難所の利用のしにくさや福祉避難所に関する情報が不足していたこともあげられていました。その他に、親族、友人、知人、地域の方からの支援や全国各地からの支援物資に助けられ、人と人とのつながりの大切さを感じたことを回答されていました。

4月16日（土）の本震以降、本施設のある地域のインフラ復旧が早かったのは何よりでした。電気、ガス、水道・井戸水などが復旧し、支援物資の配給などにより食事、飲料水、洗面、トイレ、入浴、洗濯など震災前に近い形で生活が戻っていきました。

大震災で職員の中にも住居が被災し、避難所や車中泊等の生活を余儀なくされた者もいましたが、勤務できる状況にある職員を確保しつつ、業務への影響が最少になるよう努めました。そして、4月20日（水）にはご家族送迎を基本とした通所を再開することができました。ゆめくらしワークスも少し遅れましたが4月25日（月）には再開することができました。このように、徐々に震災前の生活に近づけることで、ご利用様が安心して生活していただくことに繋がっていったのではないかと感じています。

6月18日（土）には、災害時、電気やガスが使用不可能の場合を想定し、ご利用者様への食事の提供と地域の方々への食事提供を目的に、竈（かまど）で火を起こし、炊き出しによる昼食会を行いました。アルファ化米のドライカレーやカップラーメン、

インスタント焼きそば、フルーツの缶詰等のメニューでしたが、ご利用者様に喜んで食べていただきました。このような非常時を想定した食事会は、今後も継続していきたいと考えています。



（5月6日 ボランティアフルーツ演奏会）



（炊き出し練習で非常食を食べました）

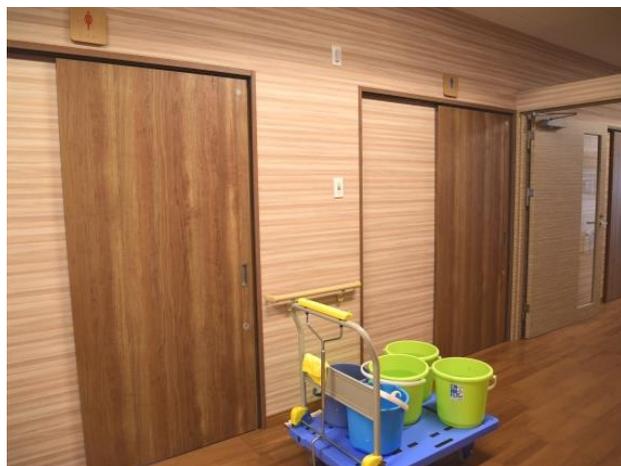


（炊き出し練習の様子）

ケア・ハピネス施設長 松村忠彦

■近隣の皆様にご支援をいただき、梶尾の地にケア・ハピネスを開所して1年、どうやら障がい者福祉サービス事業所として活動が見えて参りました。念願でした地域との連携を深めるために、4月10日（日）梶尾町自治会総会に地域連携協定案を説明に伺い、承認を頂いた直後の14日（木）21時26分に熊本地震前震、さらに16日（土）1時25分に熊本地震本震に遭遇しました。

幸い、ケア・ハピネスは、基礎クイを十分に施工しているためか建物には、何も被害はありませんでした。余震が続く16日夜には、梶尾町の41名の皆様を始め、職員家族16名、近隣の方々等で合計86名の方が避難所として御利用して頂きました。狭く、不自由な環境ではありましたが、ライフラインは、幸い電気が通じたので、電気調理器、照明、暖房ができたのが何よりでした。今後、発電機手配の必要性を感じました。水道は断水しましたが、トイレは、前震があったので貯めていた二つの浴槽の水が役立ちました。タンク補充は大変でしたが、無くなる頃には、地域の消防団にポンプ車で河川水を補給してもらいました。



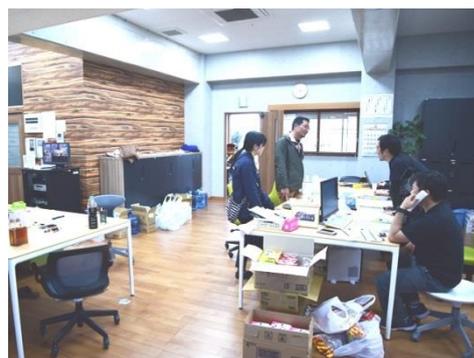
（トイレ流し用バケツ）

調理・飲料水は、支援者のご家族から熊本の名水を届けて頂き、めいとくの里の地下水をポリタンクで補給ができ、また食料は、めいとくの里の保存米でのおにぎり炊き出しに始まり、被災6日目の20日（水）には、北区役所から緊急物資を多数支給、断水中にも関わらず8名の御利用者様の一部受け入れを始めることができましたし、湯ノ花団地の3人の高齢者の皆様も避難に来て頂きました。ちなみにこの日の朝食は、セルフサービス方式でインスタント味噌汁、おにぎり2個、ふりかけ3種でした。泊まり込み職員も多く、疲れが見えてきた時期で、理事長から「いそがず あせらず 笑顔で」のスローガンがしめされました。21日（木）には、昼食調理委託をしている「栄食」さんから調理師派遣再開。おにぎり、唐揚げ、お吸い物、サラダ、大根旨煮、ほうれん草とベーコン炒めと本格的な料理に元気ができました。22日（金）被災9日目、朝5時に水道復旧するも30分後再度断水。25日から通所生活介護事業を再開することを各家庭に通知しました。ただし刻み食、ペースト食提供と風呂は、水道の完全復旧ができ次第としました。



平成28年4月25日（月）被災12日目からケア・ハピネスを再開致しました。

（安否確認を行うハピネススタッフ）





(避難されている方からエアコンもあり快適でした。日本一幸せな避難者でしたと言われた時は本当に嬉しかったです。)



(ログカフェも避難の子どもたちでいっぱい)
明治22年の明治熊本地震から127年目の未曾有の震災に驚き、戸惑いましたが、多くの支援をして頂き、なんとか再開に漕ぎつけることができました。地域の皆様、御利用者様・ご家族、関係者の皆様にご利用に深く感謝申し上げます。被災3ヶ月を過ぎてもまだまだブルーシートが、目立ちますが、半壊以上の被災ご利用者様家族、職員家族は、仮設住宅等も用意でき、新たな生活に取り組まれています。またその後、湯の花団地自治会とも地域連携協定を提携して頂きました。ケア・ハピネスは障害のある方の生活介護が目的ですが、これからも、社会福祉法人として地域連携・貢献も

必要です。今回は、避難所でしたが、小さな施設なりに、何ができるかチャレンジしたいと考えております。喫茶ログ・カフェを覗いて、アイデア提供等のご支援をお願い申し上げます。

■みんなが被災者ですが、「ささえあおう熊本 今 心ひとつに」をスローガンに4月に施行された障害者差別解消法「障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現」も求めていきたいと思いません。

■平成24年8月に「東北地方太平洋沖地震と九州の地震活動」という九州大学・地震火山観測研究センター清水洋教授の次のような講演がありました。「熊本県及びその周辺でも複数の活断層が知られており、これらの活断層や未知の潜在活断層に起因する内陸地震が、熊本県で想定される地震である。なかでも阿蘇の西側外輪山付近から益城町、八代市を通り八代海に至る地域には布田川-日奈久断層断層帯が走っており。マグニチュード7~8の内陸地震が発生する可能性がある。国の地震調査委員会によると今後30年間の発生確率評価では、布田川-日奈久断層断層帯の中部は最大6パーセントであり、わが国の主な活断層の中で発生確率の高いグループに属している。(中略)熊本市から八代市にかけての広い範囲で震度6強の極め強い揺れが想定される」と的確に予想している。同氏は、「『阿蘇山方面に断層面の動きが集中している。震源の益城町から(阿蘇にかけての)北東側にたまったエネルギーは、ある程度解放されたと考えられるのではないかと述べ、この地域では、大きな余震の可能性は低減しているとの認識を示した。』との見解です。信じて前進しましょう。

INFORMATION

社会福祉法人明徳会の公式ホームページがリニューアルしました。是非ご覧ください。



<http://www.meitokukai.jp/>

YUMEKURASHI WORKS
facebook

ゆめくらしワークス フェイスブックページ

<https://www.facebook.com/yumekurashiworks/>

マイナビ

採用情報はマイナビでもご案内しております。

<https://job.mynavi.jp/17/pc/search/corp208234/outline.html>

Ameba
めいとく日和

明徳会スタッフブログ

<http://ameblo.jp/meitokukai/>



**ADVOCACY
STANDARD**
SOCIAL WELFARE COMPANY MEITOKUKAI

誰もが安心して暮らしやすい社会、そして社会的にサポートが必要な方もそうでない方も、心から安らげる社会。

私たちは、理想的な福祉社会の創造にチャレンジをつづけています。近年では「障害者権利条約」に日本が批准するなど、障がい者の権利擁護を進める国内の取組もようやく活発になってきました。明徳会の運営する施設は、人権をしっかり護り尊重することを施設運営の最大の幹とし、そこから様々な取組みや考え方、またはアイデアの枝を伸ばしていくように努めています。

この明徳会アドボカシースタンダードをご利用者様、ご家族、地域の皆様へお届けすることで、安心・安定感のあるサービスを体感していただけたと考えています。

社会福祉法人 明德会
SOCIAL WELFARE COMPANY
MEITOKUKAI

新ホームページ配信開始



meitokukai.jp